

2025 年度 傾斜的研究費（全学分）科研費チャレンジ 研究報告書

※**本学 HP** での公表を前提に記入してください。

【研究費区分】：(②科研費チャレンジ (B))

【所属】：人文科学研究科

【氏名】：奥野 由紀子

【氏名フリガナ】：オクノ ユキコ

【職】：教授

【研究課題名】：

平和・幸福を目指した全人的教育としての内容言語統合型学習 (CLIL) 実践と研究

【研究実績の概要（400 字程度で記入。図、グラフ等の使用も可。）】

・本研究では、平和・幸福 (Well-being) を目指す全人的教育としての CLIL 実践と研究を多角的に推進した。デンマークの日本語学習者を対象としたライフストーリーインタビューの分析から、生きにくさを抱える若者の言語学習と Well-being 動機との関係を考察し、国際学会（リュブリアナ大学）および論文にて成果を発信した。また、移民・難民をテーマとした大学初年次 CLIL コースの実践では、生成 AI を活用した毎回の振り返り分析により教育効果の検証を行い、学会にて報告した。CLIL における教師の足場かけについても、ヤンゴンでの発表・教員研修を含め、協働的な授業省察の重要性を示した。さらに、北欧デモクラシー・フェスティバルを参照した大学祭での対話実践を「中間圏」の創出として論文文化した。移民・難民をテーマにライフストーリーを手法として取り入れた日本語教科書の編纂もほぼ完了し、2026 年度中の出版を予定している。

【本支援を用いた研究基盤整備の達成状況について】

- ① デンマーク・オーフス大学との研究連携基盤を整備し、同大学の客員研究員として 2026 年度に滞在予定である。現地の日本語学習者を対象としたフィールドワークおよび Well-being 動機研究の継続的な実施体制を構築した。
- ② 移民・難民をテーマとしたライフストーリー手法を取り入れた日本語教科書の編纂を完了し、今年度中の出版に向けた最終調整を行っている。本教材は国内外の CLIL 実践校での活用を見据えたものであり、研究成果の教育現場への還元基盤を整えた。
- ③ 国内外の研究協力者・実践者とのネットワークを拡充し、ヤンゴン、リュブリアナ、プリンストンなど複数の国際拠点での発表・交流を通じて、CLIL と平和教育に関する比較研究の基盤を形成した。

【外部資金への応募状況】

- ・科学研究費助成事業（基盤研究 B）に代表者として「平和構築力と『心拠再建』支援力を同時に促す

CLIL 教師育成の国際連携研究」として応募したが、残念ながら不採択となった。本研究は、CLIL を基盤とした教師育成プログラムの開発・実践・検証を、6 か国 8 機関との国際連携のもとで推進することを目的としており、今後も研究計画を精査したうえで再申請を検討している。

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名,所属,金額 (円))

- 23K02701 基盤 C 「学習者ごとの評価指針を考慮したピア相互評価の支援手法に関する研究」 15 万円
- 22H00668 基盤 B 「話題から始まる日本語教育」を支援する情報サイトの構築と話題別会話コーパスの
拡充」 中俣尚己・大阪大学・33 万円
- 24K21189 挑戦的研究(開拓)、「問い生成先行型の複数テキスト読解が生む推論の探求 ―考える市民
を育てるために―」、松下達彦・国立国語研究所 20 万円
- 24K03976 佐々木藍子・東京科学大学、「日本語学習者コーパスの拡充およびコーパスを活用した習得
研究」・ 2 万
- 24H00088 基盤 A 「やさしい日本語の理念に基づく移民時代の持続可能な多文化社会実現のための
総合的研究」・庵功雄・一橋大学 10 万